夜間帯における検査科当直者の取り組み

諏訪部 桂[1)]，田野 光敏[1)]，谷崎 義生[2)]，美原 盤[3)]

1)公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 検査科
2)公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 救急部・脳神経外科
3)公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 院長

【はじめに】当院は群馬県伊勢崎市に位置し、脳卒中を主とした急性期 45 床、総病床数 189 床のケアミックス型病院である。年間救急搬送件数は約 1000 件、当該管内における脳疾患救急占有率は約 50%、年間脳外科手術は約 300 件で、二次救急機関として地域の救急医療の一端を担っている。検査科では当直者が夜間帯の業務支援に取り組んでおり、その活動について報告する。

【夜間活動内容】救急搬送時は事前に事務当直者より検査科当直者に連絡をもらい、救急室へ出向する体制とした。救急室では血圧・SpO_2・心電図モニター等装着、採血、簡易血糖検査、12 誘導心電図などを実施する。状況をみて画像検査へ患者搬送も行う。CPA 患者に対しては検査科当直者も蘇生に対応している。ウォークインの外来患者に対しても検査科当直者が採血を実施する。入院中の患者の容態悪化時など病棟夜勤看護師が採血した検体は検査科当直者が回収に行き、ただちに検査することとした。血液ガス検査も同様に検体を回収し、報告書を直接医師に届けることとした。心電図やインフルエンザ迅速検査は昼夜問わずすべての患者に対し検査科が実施している。

【トレーニング】救急患者に適切に対応するため、院内 BLS 講習や、ICLS、ISLS の受講に取り組んでいる。また、質の向上と担保を目的に救急検査関連の資格取得にも取り組んでいる。検体採取においても全員が厚生労働省指定講習会を修了した。

【結語】夜間帯における検査科当直者の取り組みを一施設の事例として報告した。夜間という人的資源が限られている時間帯だからこそメディカルスタッフの協力が必要と考えられる。その一環として、検査科当直者は夜間の救急車、外来、病棟に対して業務支援を積極的に実施している。一方でわれわれの取り組みはあらゆる施設で適合するものとは考えておらず、救急部門の体制、ハード面、マンパワーなど考慮し、各施設の状況に合致した体制づくりが重要である。